

帝キネ普屋現代映畫

原作者 内田 菊子嬢

脚色並監督者 大森 義勝氏

撮影者 二宮 義曉氏

主演者 澤 蘭子嬢

紹介者 第二十三十七號

女らしい筆致を描いた物語ではあるが、後半など小説なら兎に角興行用の映畫にはならないストオリである。それに作者が重きを置いて居る志村の氣持などあれ丈の描寫では到底一般の觀客には解す事が不可能である。大森勝氏の脚色並監督は此物語ではこれだけ見せる丈が精々であつたらうと察しられる。澤らん子嬢のお薬この作品でも中々好い演技を見せて居るが「村の隠」程にはゆかなかつた。

山本 綠葉——  
興行價値——小説的のエンドが一般の御客様には御氣に入るまいが、女客は身につまされて泣く人も多からう。(一月十五日、大阪普邊劇場、その他帝キネ系主要封切館封切)